

平成 28 年度第 1 回在宅医療に関する実践研修会(基礎)グループ討議内容

テーマ：「24 時間対応の現状・課題について」

日 時：平成 28 年 7 月 27 日（木）午後 19 時 15 分～20 時 45 分

場 所：福井県医師会館 1 階小ホール

各グループの討議内容

1 グループ

<課題>

経験しているスタッフが少ない（人材不足、経験不足）ことにより、24 時間対応の現状について不安が多い。

<主な議論内容>

- ・実際には看護師を中心とした地域連携でバックアップされている。
- ・メール等を利用や副主治医等工夫をすることで、また多職種との連携を図ることでマンパワー不足による不安の解消につながる。
- ・福井市医師会では地域包括ケアサポート医のシステムをつくっており、不安の解消につながっている。
- ・家族にも死の教育や今後起こりうることの説明をきちんとすることで在宅療養の不安をなくしていく。
- ・不安の解消の為には、病院との連携を図っていくことも有効。
- ・地域の要望として、開業医の往診、24 時間ステーションを増やしてほしい。

2 グループ

<課題>

急変時の対応どうするのか。

<主な議論内容>

- ・急変時、家族はどうしたらいいか混乱する。
- ・主治医に連絡がつかない場合がある。
- ・癌と分かっている場合は、ある程度経過がわかるが、非癌（心不全等）の場合、呼吸が止まった時、家族の方、家族以外の方が慌てて救急車を呼び検死につながってしまう。それをどのようにするのか。
- ・対応としては、普段から、患者・家族・医師・訪看でコミュニケーションが必要である。
- ・日頃からの信頼関係は必須である。
- ・家族には「何かあったら、まず訪問看護へ」を日頃から言うておく。
- ・家族のキーパーソンに利用者関係ターミナル研修会や利用者関係の研修会等に参加してもらい、体験談を聞いてもらうこともよい。

3 グループ

<課題>

24 時間対応の現状について

<主な議論内容>

医師の思い

- ・ 昼間の対応が大切であり、内服や点滴の判断や熱発時の対応など先に対応していくことで、家族の不安が避けられる。
- ・ 医師も抱えている患者が多くて連携の難しいところがある。

看護師の思い

- ・ 訪問看護師は、24 時間対応の第一選択として、医師に電話する前のクッション的役割がある。
- ・ 家族に一番近い立場であることから、家族の思いを医師に伝える代弁者としての役割もある。
しかし、土日などの休日や夜間の連絡は正直心苦しい時もある。

家族について

- ・ 家族の中で理解度にギャップがある。
家族の中で医師の話をしっかり理解でき、判断できる人を決めておかないといざというときに救急車で運ばれてしまうことがある。
 - ・ 実際に主として介護を行う人と決定していく人を確認することが大事。
 - ・ そのためには、普段から家族構成を知っておくことや家族とコンタクトを取っておくことが大事。

4 グループ

<課題>

急変時の対応

<主な議論内容>

- ・ 昼間の訪問看護の際に異常を見つけ、医師へ報告し対応するなど、昼間の対応をしっかりとしておく。
- ・ こまめに家族と連携をとる。家族への説明をしっかりと行うことであまり夜間呼ばれることはない。
- ・ 医師と訪問看護との連携を普段から密にし、いつでも連携が取れるようにする。
- ・ 外来中で忙しい時は訪問看護を利用する。
- ・ 自分が不在の時、副主治医等と連携を持たないと在宅は難しい。
- ・ 病院との連携密にするとやりやすくなる。
- ・ 介護の為に家族が失職、犠牲に。家族の負担を軽減するシステムが必要。
- ・ 医師の高齢化の課題。後継者をいかに育てるのか。
- ・ 訪問看護の24時間体制の充実